

2025年10月16日

最近の長野県経済の動向 (月例調査)

概 要

全国景気※	米国の通商政策等による影響が自動車産業を中心にみられるものの、緩やかに回復している
長野県内景気	足踏みの状態にある
7月の生産動向	生産は一進一退で推移
8月の個人消費	乗用車新車販売台数は2カ月連続で前年を下回る
8月の公共投資	公共工事保証請負額は2カ月ぶりに前年を下回る
8月の住宅投資	新設住宅着工戸数は4カ月連続で前年を下回る
8月の雇用情勢	有効求人倍率は2カ月ぶりに前月を下回る

今後は、米国の通商政策の影響や、個人消費に影響を与える実質賃金の伸びが安定的にプラスで推移していくかどうかを注視する必要がある。

※内閣府「月例経済報告(2025年9月)」より

照会先

一般財団法人 長野経済研究所 調査部

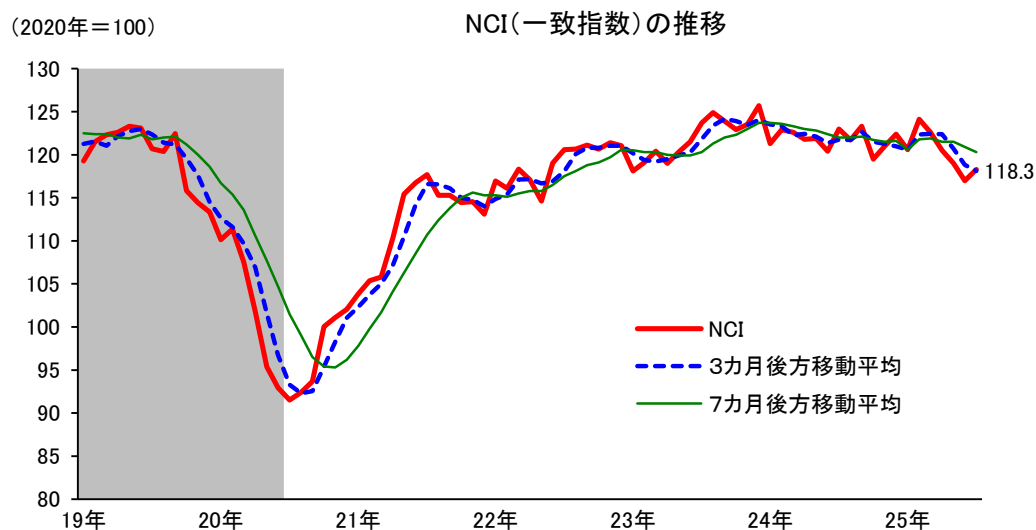
担当 桑井、須田

電話 026-224-0501



景気動向指数

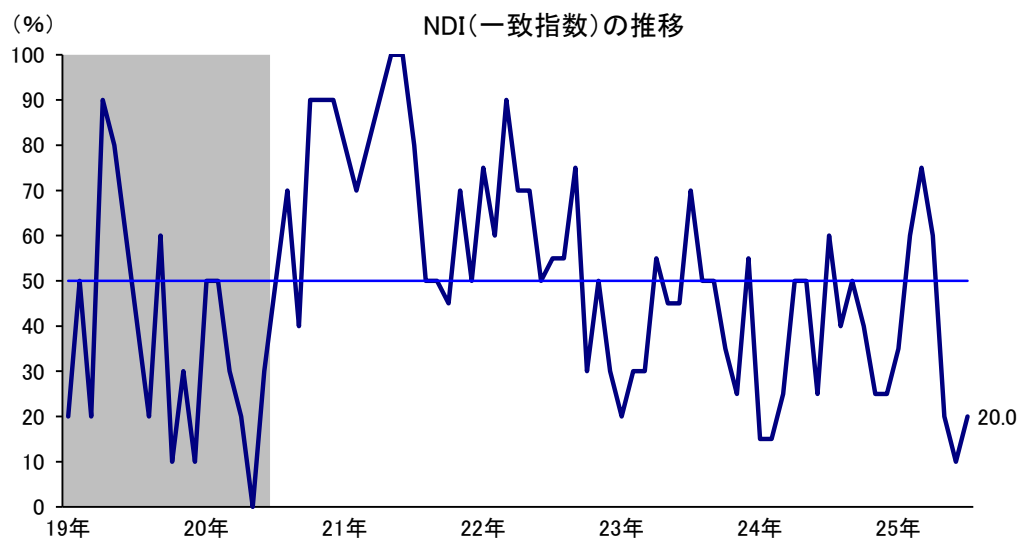
- ・7月のNCI(一致指数)は、118.3と前月と比較し+1.3ポイントとなった。3カ月後方移動平均は同△0.7ポイントと4カ月連続で低下し、7カ月後方移動平均は同△0.6ポイントと2カ月連続で低下した。NCI(一致指数)は、悪化を示している。
- ・NDI(一致指数)は、20.0%となり、景気判断の分かれ目である50.0%を3カ月連続で下回った。



(資料)当研究所「長野県景気動向指数」

(注) 1.NCIは長野県の景気変動の大きさやテンポ(量感)を示す

2.シャドー部分は長野県の景気後退期を示す



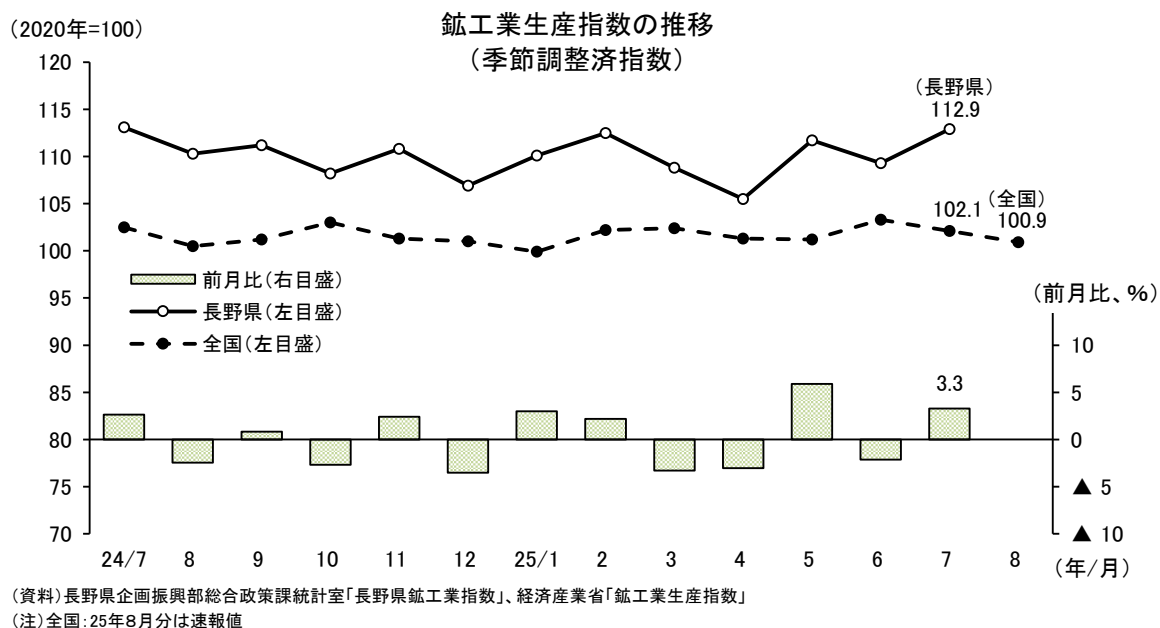
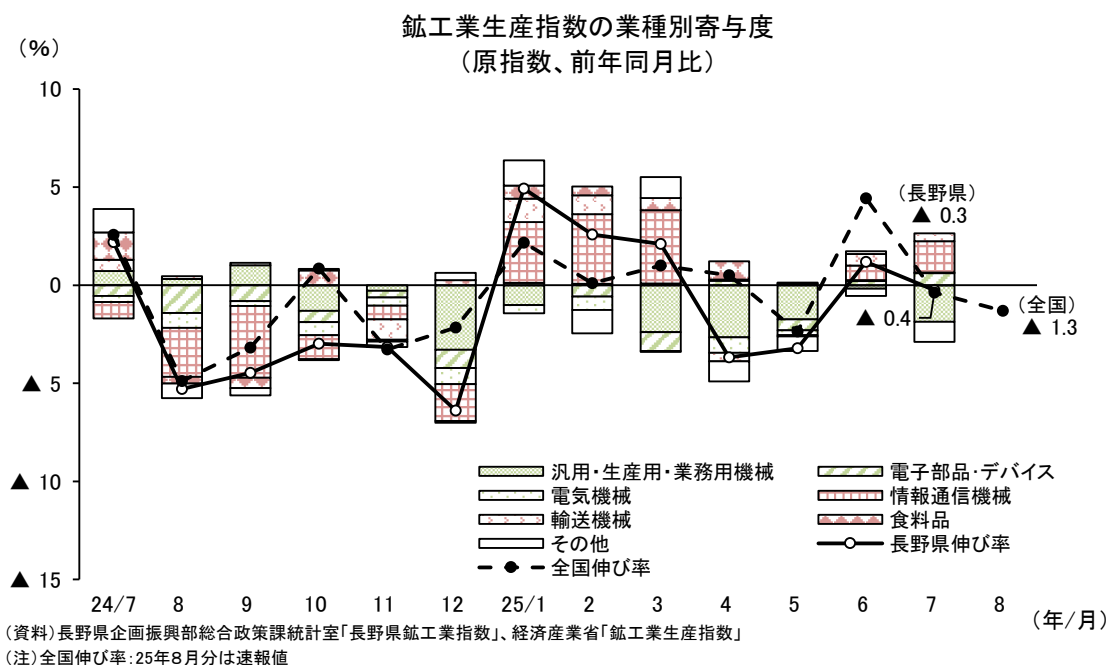
(資料)当研究所「長野県景気動向指数」

(注) 1.NDIは長野県の景気の方角、波及度合いを示す

2.シャドー部分は長野県の景気後退期を示す

生産は一進一退で推移

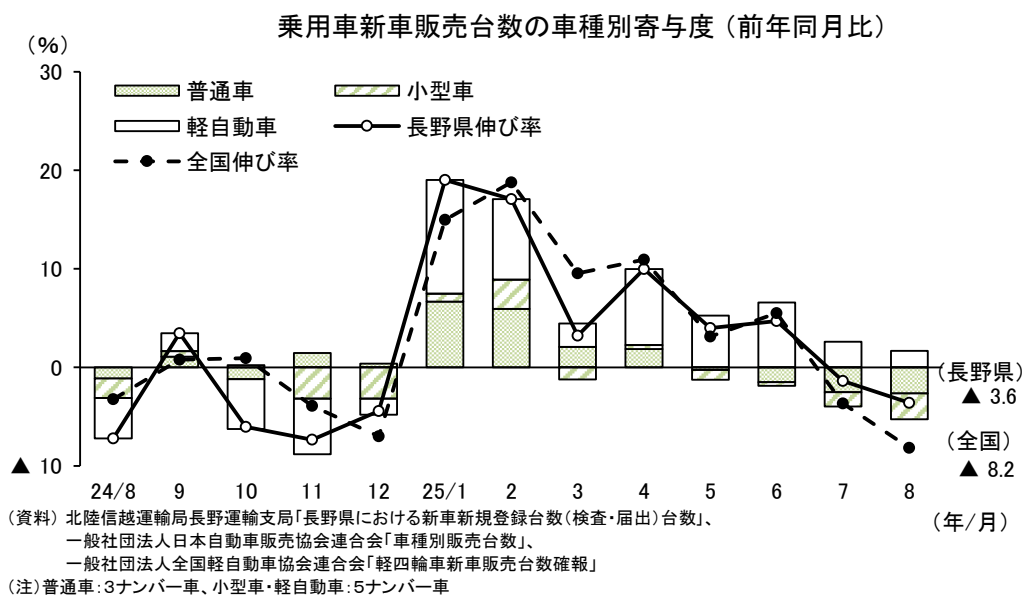
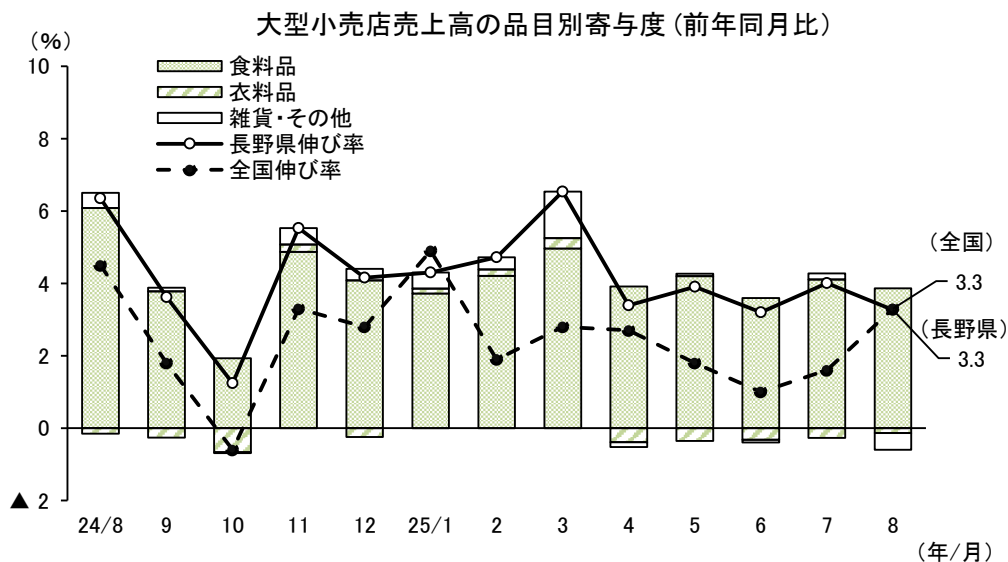
- ・7月の鉱工業生産指数は、原指数が前年同月比△0.3%、季節調整済指数が前月比+3.3%となった。
- ・季節調整済指数は2カ月ぶりに前月を上回った一方、原指数は2カ月ぶりに前年を下回った。中国景気の低迷やIT関連需要が低調に推移する中、車載関連でも回復の動きが鈍化していることなどから、生産は一進一退で推移している。
- ・主要業種別にみると、「情報通信機械」「電子部品・デバイス」などが前年を上回ったものの、「汎用・生産用・業務用機械」などが前年を下回った。



個人消費

乗用車新車販売台数は2カ月連続で前年を下回る

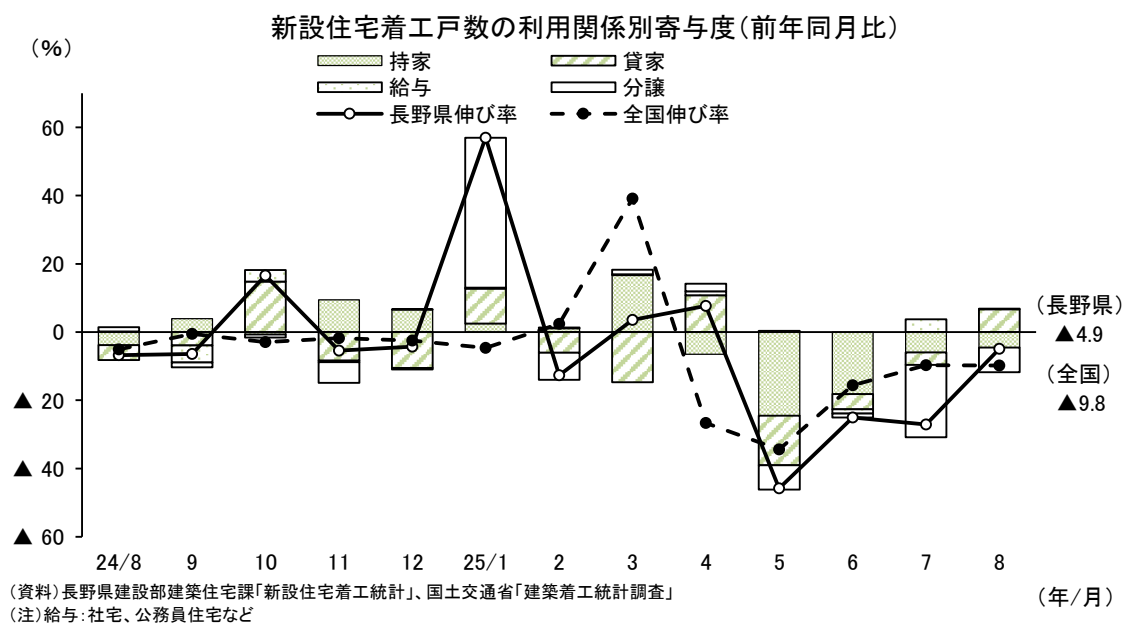
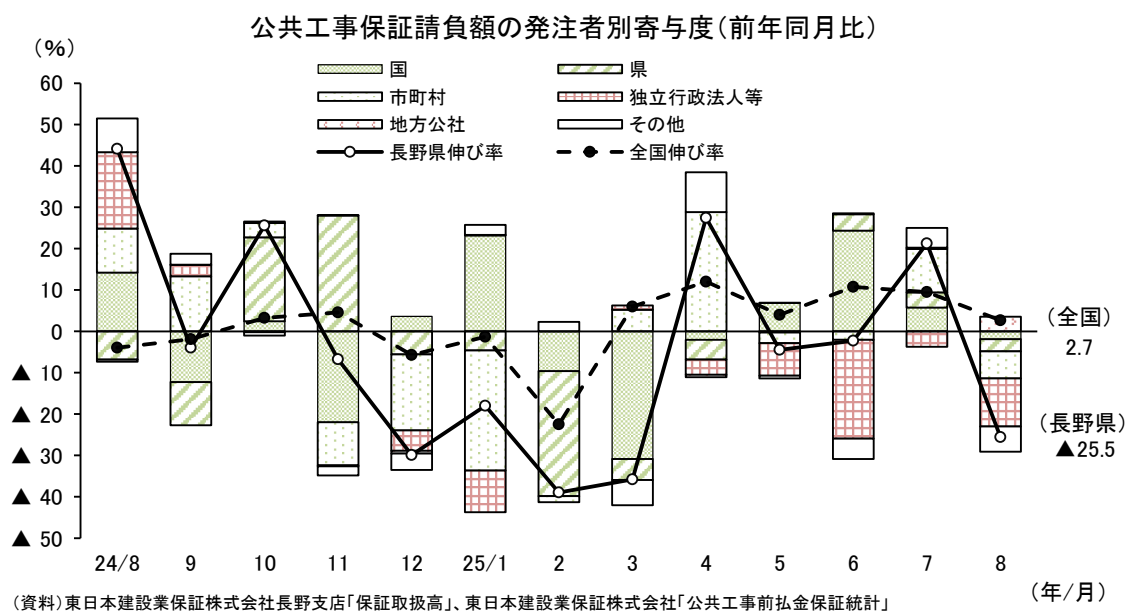
- ・8月の大型小売店売上高は、前年同月比+3.3%（売場面積調整前）となり、47カ月連続で前年を上回った。食料品は、コメや調味料等の販売価格の上昇などから、同+4.5%となった。猛暑の影響により、衣料品は、秋物衣料を中心に販売が伸び悩み、同△4.6%となった。雑貨・その他は、涼感商品など季節商材の需要が、例年よりも前倒しで発生したことにより、同△3.9%となった。
- ・8月の乗用車新車販売台数は、新型車の市場投入が一服していることなどにより、前年同月比△3.6%と2カ月連続で前年を下回った。車種別にみると、軽自動車は同+3.9%と8カ月連続で前年を上回った一方、普通車は同△7.1%、小型車は同△12.7%といずれも4カ月連続で前年を下回った。



建設投資

公共工事保証請負額は2カ月ぶりに前年を下回る

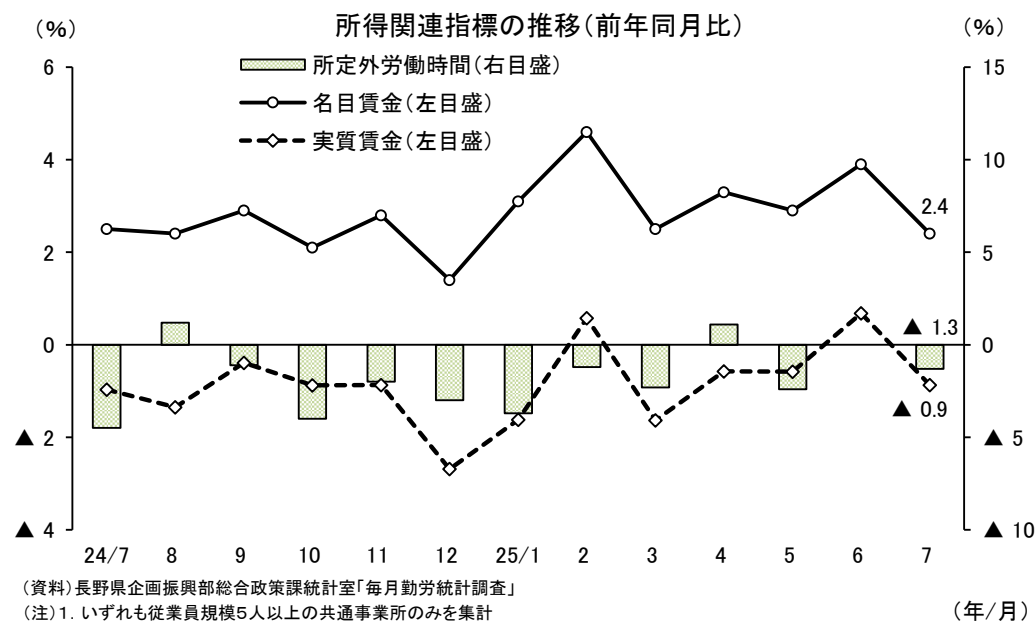
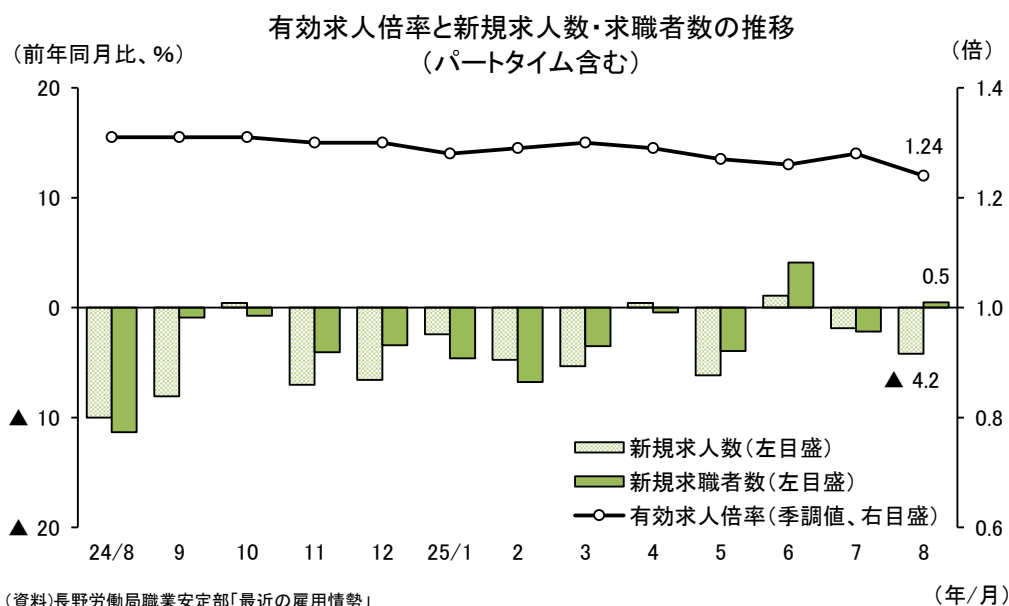
- 8月の公共工事保証請負額は、前年同月比△25.5%の128億4,200万円となり、2カ月ぶりに前年を下回った。発注者別にみると、地方公社が同+702.7%と増加したものの、国が同△11.0%、県が同△15.4%、市町村が同△15.9%、独立行政法人等が同△81.4%、その他が同△76.7%と減少した。
- 8月の新設住宅着工戸数は、前年同月比△4.9%の980戸と4カ月連続で前年を下回った。利用関係別にみると、貸家が同+23.1%、給与が同+100.0%と増加したものの、持家が同△8.4%、分譲が同△43.5%と減少した。



雇 用

有効求人倍率は2カ月ぶりに前月を下回る

- ・8月の有効求人倍率は、前月比△0.04ポイントの1.24倍となり、2カ月ぶりに前月を下回った。
- ・新規求人数(全数)は前年同月比△4.2%となり、2カ月連続で前年を下回った。このうち常用は同△2.2%、パートは同△6.7%となった。主要産業別では、建設業が同+1.2%、運輸業、郵便業が同+11.4%、生活関連サービス業、娯楽業が同+6.8%となるなど5産業は前年を上回ったが、製造業が同△5.6%、卸売業、小売業が同△7.7%、サービス業が同△1.0%となるなど8産業は前年を下回った。
- ・新規求職者数(全数)は、前年同月比+0.5%と2カ月ぶりに前年を上回った。
- ・7月の名目賃金は前年同月比+2.4%と51カ月連続で前年を上回ったものの、実質賃金は同△0.9%と2カ月ぶりに前年を下回った。所定外労働時間は同△1.3%と2カ月ぶりに前年を下回った。



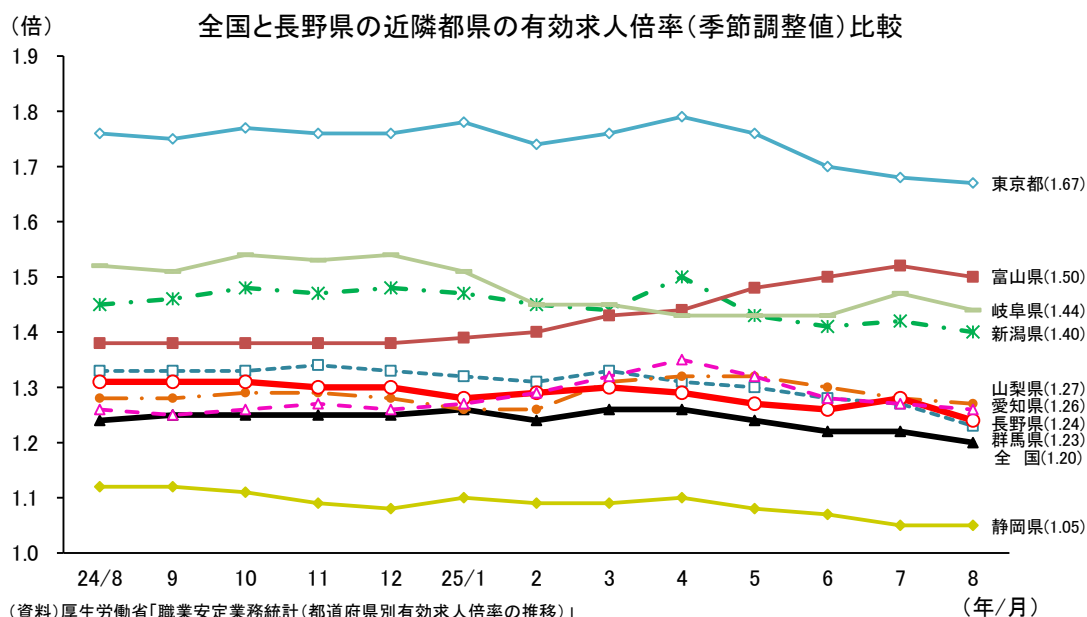
県内地域別・近隣都県別有効求人倍率

有効求人倍率は4地域いずれも前年を下回る

- ・8月の地域別有効求人倍率(全数)は、北信が前年同月比△0.07ポイントの1.22倍、東信が同△0.02ポイントの1.27倍、中信が同△0.10ポイントの1.26倍、南信が同△0.07ポイントの1.23倍となった。
- ・職業安定所別有効求人倍率(全数)は、佐久が1.31倍と最も高く、次いで飯田が1.30倍となった。
- ・長野県の有効求人倍率は59カ月連続で全国を上回り、順位は前月から4つ下げ19位となった。

長野県職業安定所別有効求人倍率(実数値)(25年8月)

地 域	北 信(1.22) (前年同月比▲0.07)				東 信(1.27) (前年同月比▲0.02)		中 信(1.26) (前年同月比▲0.10)			南 信(1.23) (前年同月比▲0.07)		
職業安定所	長野	篠ノ井	飯山	須坂	上田	佐久	松本	木曽福島	大町	飯田	伊那	諏訪
全 数	1.27	1.10	1.24	1.21	1.23	1.31	1.27	1.23	1.22	1.30	1.14	1.26
前年同月比 (ポイント)	▲ 0.08	▲ 0.09	0.01	▲ 0.10	▲ 0.03	▲ 0.01	▲ 0.08	▲ 0.07	▲ 0.21	0.00	▲ 0.09	▲ 0.11
うち常用	1.17	1.07	1.09	1.06	1.17	1.29	1.17	1.19	1.11	1.24	1.01	1.16
前年同月比 (ポイント)	▲ 0.04	▲ 0.08	0.00	▲ 0.12	▲ 0.01	0.01	▲ 0.06	▲ 0.04	▲ 0.20	▲ 0.01	▲ 0.06	▲ 0.12



(資料)厚生労働省「職業安定業務統計(都道府県別有効求人倍率の推移)」

(注)1. 新規学卒を除きパートタイムを含む

2. 長野県の近隣都県および、経済規模、産業構造が類似している県